



愛媛医療センターニュース

石 鎚 —いしづち—

2026

第83号

4月1日発行

発行者:愛媛県東温市横河原366 国立病院機構愛媛医療センター 発行責任者:院長 船田淳一 <https://ehime.hosp.go.jp>



菜の花：東温市見奈良

久保義一前副院長の退任(3月31日付)に伴い、以下のように人事異動がありました。

院 長 船田淳一(循環器内科)：現任

副 院 長 伊東亮治(呼吸器内科)

統括診療部長 宮本良治(整形外科)：現任

4月1日より、この陣容でこれまで同様、信頼される医療の提供と、地域に根ざした病院を目指して邁進して参ります。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

関連記事：2頁

副院長就任のごあいさつ



色とりどりの花が咲きそろそろ季節となりました。日頃より当院の診療にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

このたび、令和8年4月1日付で副院長に就任いたしました伊東亮治です。私はこれまで呼吸器内科医として、気管支喘息やCOPD、肺炎、肺癌といった身近な疾患から、結核などの専門性の高い感染症まで、幅広く診療に携わってまいりました。医療の現場で最も大切にしているのは、「病気だけを見るのではなく、一人の人間としての患者様に向き合う」ということです。副院長という重責を担うにあたり、その想いをさらに強くしております。

当院は、結核や神経難病、重症心身障害といった、公的な役割を担う「政策医療」の拠点としての誇り高い歴史を持っています。これらの分野では、おひとりおひとりの患者様と、年単位の長い時間をかけて向き合う粘り強さが求められます。一方で、多くの急性期疾患に対しても、迅速かつ的確な高度医療を提供しております。長期にわたる療養を支える「静」の医療と、命の瀬戸際を救済する「動」の医療。この両輪を高い次元で維持してまいります。

当院のホームページに「地域とともに育む、信頼の医療」と掲げております。それには、医療は私たちだけで完結するものではなく、地域の皆様、そして患者様ご自身と共に創り上げていくものであるという想いが込められています。特に難病や障害をお持ちの患者様、そして救急で搬送される患者様にとって、当院は「最後の砦」となり得ます。その信頼に応えるため、多職種によるチーム医療をさらに強化し、風通しの良い、安全な医療環境を追求してまいります。専門性を追求しながらも、患者様の視点を忘れず、温かみのある医療を提供してまいります。

私たちが目指すのは、病気があってもなくても、この地域で安心して暮らせる社会です。皆様の「健やかな呼吸」と「日々の安心」を守るため、職員一同、より一層の研鑽を積んでまいります。

病院の廊下や診察室でお見かけの際は、どうぞお気軽にお声がけください。皆様と共に、当院をさらに「信頼の医療」を体現する場所へと育てていければ幸いです。今後とも、何卒よろしくごお願い申し上げます。

副院長 伊東 亮治

医 心 伝 心

感染対策のおはなし

4月になると気温が上がり、「もう感染症の心配は少ない」と感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、けれども、インフルエンザなどの呼吸器感染症は、春でもゼロになるわけではありません。近年は国内外の行き来が増え、感染症が流行する時期が以前とは少し変わってきています。そのため、「この季節だけは安心」と言い切れない場面も増えてきました。

こうした状況から、これまで呼吸器感染症の流行が少なかった時期でも、基本的な感染対策を続けることが大切になっています。

病院では、皆さんが安心して診療を受けられるよう、流行状況に応じた感染対策を行っています。手指消毒やマスクの着用などは、安心して診療を

受けていただくための大切な取り組みの一部です。例えば咳やのどの痛み、発熱などの症状がある場合は周囲の方への配慮としてマスクの着用をお願いしています。また感染症の流行状況によっては来院される方全員にマスクの着用をお願いすることがあります。感染対策の内容は、感染症の流行状況に応じて変更されますので、院内掲示や職員の案内をご確認ください。

これからも、皆さんに安心して受診いただけるよう、病院では感染対策に取り組んでまいります。どうぞ引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。

呼吸器内科医師 佐藤 千賀



地域の輪

繋がる地域医療連携



中野クリニック

2002年1月8日、小雪が舞う土曜日、開院しました。風に飛ばされないように体を斜めに倒し、歩いてこられる患者様の姿を今でも鮮明に覚えています。それから24年余り経過しましたが、アツと言う間の日々感じられるのは、年齢のせいでしょうか？

当時は脳神経外科の診療所開設は稀でした。医師会の開業諮問委員会(?)に呼ばれた時、『脳神経外科で何が出来ますか？手術をしないのなら脳神経内科ですね。』と言われました。

また、銀行からは『脳神経外科のみでは、診療範囲が限定されて集客があまり望めないのでは？』と言われました。そこで、地域住民の『かかりつけ医』を目指し、『取り敢えず何でも診ます。』の方針から『中野脳神経外科』ではなく『中野クリニック』としました。

愛大医学部附属病院では脳神経外科を軸に基礎を学びましたが、市立宇和島病院と松山城東病院では、救急に興味を持ち、救急車が到着すると見に行き、他科の先生に色々とお話をいただいた事が開業後の診察に役立っています。

また、脳神経外科医として脳出血や脳梗塞の危険因子である生活習慣病は、極めて重要でありシッカリと対応しなければなりません。それらが、現在の『かかりつけ医』の役割に繋がっていったと思います。

しかしながら、やはり専門医の先生方の助けがなければ十分な治療が出来ないこともしばしばです。そんな時、愛媛医療センターの先生方には、何度も無理なお願いをしてきましたが、快く引き受けてくださり、本当にありがとうございます。この場をお借りし改めて御礼を申し上げます。今後ともよろしくお願ひいたします。



より良いケアを目指して 院内研究発表会

2026年2月25日、当院にて「第20回 院内研究発表会」を開催いたしました。

この発表会は、日々の診療現場で私たちが感じている課題を見つめ直し、より質の高いケアを追求するために、スタッフが日頃の取り組みを発表し合う場です。

今回は医師、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、栄養士など、多職種から計10の発表がありました。専門分野の垣根を越えて、それぞれの視点から活発な意見交換が行われました。

厳正な審査の結果、以下の2演題が「院長賞」に選ばれました。

「A病棟における心不全患者様への看護師による生活指

導の実態調査」
「栄養情報連携の取り組み」

いずれも、患者さんの生活の質向上に直結する非常に意欲的な発表でした。若手スタッフによる論理的な考察は、当院の未来を力強く感じさせるものでした。

多職種で知恵を出し合うことで、様々な角度から患者さんを診ていくことの重要性を改めて実感いたしました。今回得られた知見を院内全体で共有し、日々の診療やサービスの向上へと繋げてまいります。これからもスタッフ一同、患者さんにより良い医療をお届けできるよう努めてまいります。

臨床研究部長 伊東 亮治
※3月31日現在



医療機関訪問の…



発表演題一覧

第1セッション

1. 地域連携強化のための医療機関訪問の効果
2. 経口避妊薬服用を契機に肺血栓塞栓症を発症した原発性抗リン脂質抗体症候群(APS)の一例
3. 術前心臓リハビリテーションを実施した高齢心不全患者の報告
4. 家庭用医療機器を活用した心不全イベント予測システムの開発

生活指導が…



第2セッション

5. 感染対策リンクナースの現状と課題
6. A病棟における心不全患者への看護師による生活指導の実態調査
7. 当院における栄養情報連携の取り組みについて

NTM外来の…



第3セッション

8. 集中的理学療法により自宅退院に至った重症インフルエンザ肺炎後ICU-AW患者の一例
9. 疑義照会簡素化の取り組みについて
10. 肺NTM外来開始後1年のまとめ



新連載

地域医療連携だより

お気軽に

相談・質問
手続きなど

ご利用ください

今年度より、連載を掲載させていただくようになりました。よろしくお願いいたします。

愛媛医療センター地域医療連携室は、地域の医療機関や介護施設と当センターとの連携を強化し、患者さんが地域で安心して、質の高い医療を受けられるよう支援するところです。

病気の治療が終わったあと、患者さんが住み慣れた地域へ戻り生活できるよう、患者さんが望む地域のかかりつけ病院と、愛媛医療センターとの調整を行います。

地域医療連携室ができること

医療ソーシャルワーカー、入退院支援看護師が、患者さんやご家族と共に、在宅（または地域医療機関）に戻るにあたり、どのような支援または福祉資源が必要かと一緒に考えさせていただきます。地域医療連携室に直接お越しただいて構いませんので不安なことがあればご相談ください。

地域医療連携室『患者相談窓口』

地域医療連携室の患者相談窓口は、患者さんやご家族のあらゆる悩みや不安を伺い、一緒に解決策を考え、適切な医療や福祉サービスの利用につなげる“相談と連携の窓口”として機能しています。どんな些細な心配事でもお気軽にご相談ください。

患者相談窓口

電話：089-990-1923(直通)

相談時間：8時30分～17時15分

(※土日祝・年末年始は除く)

対応者：医療ソーシャルワーカー(医療相談員)
または看護師

主な相談内容

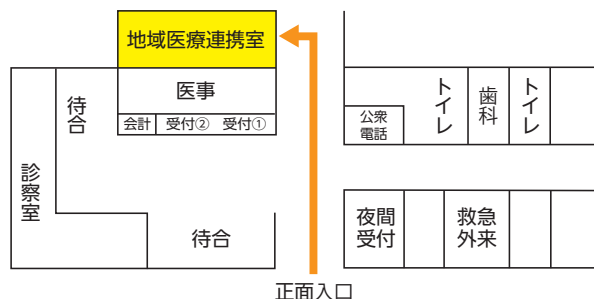
- ・退院後の生活や介護・福祉サービス利用の相談
- ・医療費や各種助成制度の相談
- ・かかりつけ医や専門医療機関の紹介
- ・病気や治療についての不安や疑問
- ・医療・福祉に関する各種手続き
- ・入院・転院や在宅医療に関する相談

利用方法

- ・相談は無料、かつプライバシーの保護を厳守します。
- ・相談を希望する場合は、医師や看護師にお申し出になるか、地域医療連携室・患者相談窓口へ直接お越しいただくか、またはお電話ください。



1階 地域医療連携室ご案内図



医療安全管理室 だより

こんなことしています

転倒防止の取り組み

～薬剤篇～

高齢患者さんの骨折は転倒が原因になっていることが多く、ふらついたり転倒したりすることで、

本来の治療が遅れてしまったり入院期間が延びてしまったりすることもあります。そのため、転倒しないようにすることは非常に重要で、当院では、医療安全管理室と医療安全部会・転倒骨折防止グループが中心となって、日頃から転倒と骨折を防ぐための取り組みを行っています。

その取り組みの1つとして、このたび、転倒に関係する薬剤の知識を学ぶことを目的とした院内職員向け研修会を実施しました。

ふらつきや転倒を起こしやすい代表的な薬は、睡眠薬、抗うつ薬、パーキンソン病治療薬です。その中でもベンゾジアゼピン系に分類される睡眠薬（当院で処方される代表的なものはプロチゾラム）は、眠気・注意力の低下・意識や平衡感覚の低下を生じやすく、特に注意が必要とされています。

加えてやっかいなのが、筋弛緩作用のために不意に下肢の脱力が起こってしまい、それが転倒しやすさに繋がってしまうことです。

これらを学んだことで、転倒を防ぐための私たち医療スタッフの具体的な取り組みについてこれま

で以上に考え、睡眠薬を飲んでいる患者さんに対して注意を促すことだけでなく、必要に応じて薬について患者さんと一緒に考えていくといったことを強化していきたいと思っています。

今後もこのような研修会を繰り返し実施することで、患者さんが安心して安全に治療を受けられるよう、医療安全管理室を中心として院内スタッフ一同、取り組んでまいります。

この薬は要注意



薬剤師 宮田 篤



冬うらら

二十歳を祝う会 開催

重症心身障害者病棟に入院されている利用者さんが、このたび二十歳という大きな節目を迎えられ、「二十歳を祝う会」を執り行いました。式当日はお母さまにもご参加いただき、日頃から利用者さんを支えている病院スタッフに加え、以前入院されていた病院で、受け持ちをされていた看護師の方も駆けつけてくださいました。久しぶりの再会に、当時の思い出や成長のあゆみが語られ、会場は自然とあたたかな空気に包まれていきました。

院長をはじめとする職員のお祝いの言葉はとてもあたたかく、少し緊張気味の利用者さんでしたが、おもわず顔がほころびました。お母さまの思いが込められた数々の写真をもとに行ったスライドショーでは、あふれる思いに涙する場面もみられました。

また、ささやかながらも心を込めたお祝いの中で、二十年という歳月の重みと、ご家族や多くの医療者に大切に見守られてきた歩みを感じるひとときとなりました。

最後に、利用者さんからお母さまへの思いを込めた手作りプレゼントも手渡され、会場には大きな拍手が沸き起こりました。

利用者さんのこれまでのあゆみを喜び合い、これからの人生が穏やかで実り多いものであるよう願いを込めた一日でした。

主任児童指導員
岡野 恭子



お母さまと
主治医の桑原医師と記念撮影



心地よい風と陽気に包まれ、春の訪れを感じる季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。「春」といえば、「お節句」。女の子の健康と幸せを祈る行事として有名なのは、「ひなまつり（桃の節句）」ですが、男の子といえば、「端午の節句」ですね。

そこで、今回は、「端午の節句」、そして「柏餅」についてご紹介します。

「端午」の「端」とは、物のはし、つまり、「はじまり」という意味で、「午」は、干支や暦に出てくる午（うま）のことですので、もとは、月の端（はじめ）の午（うま）の日という意味で、五月に限ったものではありませんでした。しかし、午（ご）と五（ご）の音が同じなので、毎月五日を指すようになり、やがて（奇数の重なることをおめでたいとする考え方から）五月五日を男の子の誕生と成長を祝う節句とし

て鎧や兜、馬や虎・若武者の人形、鯉のぼりやのぼりなどを飾るようになったそうです。

また、「端午の節句」の頃には、「粽（ちまき）」や「柏餅」を召し上げる方も多いかと思えます。では、数ある葉の中で、なぜ「柏の葉」が使われるようになったのでしょうか。

御存じの方もいらっしゃるかと思いますが、「柏の葉」は、新芽が育つまで親葉が枯れ落ちないので、子孫繁栄を祈るめでたい木とされています。また、葉の形が神参りの時に打つ柏手に似ていること、そして、餅も神事に欠かせない縁起ものとされていたので、「餅を柏の葉で包んで供える」ことになったそうです。

そんな謂れを思いながら召し上がっていただくと、いつもと一味違った「柏餅」になるかもしれませんね。

柏餅を召しあがる際は、喉に詰まらせないようにゆっくりとお召上がりください。

♪橘薫る朝風に戸



ちよんが言いたいこと

愛媛医療センターニュース編集委員の持ち回りでお届けします。

夫婦の定義を『最も親密な赤の他人』としていたのは、A・J・アスの『悪魔の辞典』だったと記憶している。流石、毒舌と皮肉の大家らしいひと言である、唸らせられるものがあると同時に、成程なあ。と感心もし、納得もする言蓄のある一語であると思う。

結婚して、もうすぐ四〇年になる。結婚四〇周年は、『ルビー婚式』というのだそう。記念品にはルビー関連の物が選ばれることが多く、真紅のバラを四〇本贈る方もいるのだとか。私たち夫婦にはそんなバタ臭いことは似合わない

ので、せいぜい揃いの湯呑みを買っただろうか。

ひとくち「四〇年というけれど、実の親兄弟と過ごすよりも遥かに長い時間を、一緒に過ごしてきたことになる。決して短い時間ではない。その間特に大きな波風もなく、仲睦まじく過ごし、まずまず穏やかな航海だったと思う。

「それもこれも俺の辛抱があったればこそ」と言えば、「いやいや、私が耐えたからこそ」と返ってくることは想像に難くない。まさに割れ鍋に綴じ蓋を地で行くでござい夫婦だ。

様々な夫婦の形と過ごし方があるだろ

うけれど、我が家に限って言えば「夫婦円満の秘訣は？」と尋ねられれば、私は「嫁が強いこと」と即断する。

男は莫迦なので、とかく暴走しがちだが、そこはしっかりと手綱を引き絞り、夫をコントロールする強い妻と、普段は偉そうにしている、その実この世で一番妻が怖い夫の組み合わせがベストではないかと思う。俗に言う尻に敷かれる。というやつだ。

当然我が家も、妻が最強にして最恐であり、最兇だ。

その昔、積尊の掌上を飛び回って得意になっていたお猿さんがいたが、夫婦関係も、妻の掌で夫が転がされているぐらいが、ちょうどいいのではないかと思う。

理想の嫁を貰った果報者の私。「これからよろしくお願いします」と、妻が後ろを向いた際に、その背に向かって、そっと手を合わせて拜んでおく。

最後に、我が家のヒエラルキーを、お釈迦さんの言葉でなぞらえてみたので記しておく。

『天上天下 嫁が独尊』

樹懶菴

これからも、よろしく



外来診療担当医表

内科外来直通電話 TEL.089-990-1834

外科外来直通電話 TEL.089-990-1835

診療科	診察室	午前・午後	月	火	水	木	金
循環器内科	6診	午前	船田	吉井	関谷	船田	関谷
		午後			吉井	宮崎	
消化器内科	9診	午前	廣岡		横山	久保	
		午後					
糖尿病内科	9診	午前		加藤			加藤
		午後					
	11診	午前			首藤		宮崎(第4)
	12診	午前				中口	
呼吸器内科	10診	午前	阿部	伊東	佐藤	三好	山本
		午後					
	11診	午前		渡邊		仙波	
午後							
	8診	午前					伊東
		午後	三好				
脳神経内科	8診	午前	松本			松本	
	12診	午前		戸井			戸井
午後		山崎					
整形外科	14診	午前				石川	
	15診	午前	宮本		石川	宮本	
	16診	午前	青木	玉井	青木		玉井
消化器外科	14診	午前		鈴木	森本		
		午後					石丸
呼吸器外科	14診	午前					湯汲
	15診	午前		植木			
小児科(神経外来)	14診	午後	菊池		桑原(第1・3・4) 野間(第2)		菊池

専門外来(予約制)		月	火	水	木	金
心臓外科外来(院内紹介のみ)	16診					泉谷
脳神経外科(院内紹介のみ)	14診		松本・柴垣(午後)			
ペースメーカー外来	16診				第2・4(午後)	
フットケア外来	小児面談室				第1・3・5	
ペインクリニック	12診			山内(午前)		
アスベスト外来	14診		午後		午後	
息切れ外来	11診	渡邊(13:30~)				
SAS外来	11診					渡邊(14:00~16:00)
頭痛外来	16診				永井(第2・4午前)	
神経難病	8診			尾原		
鼠径ヘルニア外来	14診		鈴木(午前)			
気胸外来	14診					湯汲(午前)
NTM外来	8診			第2・4(13:30~15:30)		

※外来受付は8:30から11:00までです。内科は13:00から16:00までです。

2026年4月1日現在

ただし、土・日・祝祭日・年末年始(12月29日~1月3日)は休診です。

※SAS(睡眠時無呼吸症候群) NTM(抗酸菌症)

独立行政法人国立病院機構 愛媛医療センター

〒791-0281 愛媛県東温市横河原366 TEL 089-964-2411 FAX 089-964-0251

ホームページアドレス <https://ehime.hosp.go.jp>

※弊紙の基本方針として、掲載写真については原則ご本人様の了解をいただいております。

※弊紙へのご意見ご要望ご感想は、当センター内病院新聞編集委員会(担当:小倉)までお寄せください。